

元気のヒント

◁95▷



徳島大学病院
脳神経外科助教

多田 恵曜

健康

意識障害を来したり、手足のけいれんを繰り返したりするてんかんは、あらゆる年齢で発症する脳の病気で、患者さんは100人に1人いるといわれています。脳の神経細胞は電気の流れによって働き、てんかんの発作はこの電気の流れが乱れることで生じます。

問診や磁気共鳴画像装置(MRI)検査、電気の流れを検出する脳波検査などにより、てんかんと診断された患者さんには、抗てんかん薬による薬物治療を行います。近年、優れた抗てんかん薬が使えるようになり、手術などの外科治療も日々進歩しています。

手術の効果が最も期待できるのが「側頭葉てんかん」です。側頭葉てんかんで起る発作の特徴は①胃

てんかん

がムカムカし、気持ちが悪くなったり、別の何らかの前兆を感じたりする②突然動作が止まり、一点を見詰める③発作中に口をペチャクチャ、モグモグさせ、手で服をまさぐることがある④発作が終わっても、意識がもつろつとすることが多い⑤などです。発作中は意識障害があるため、薬剤で症状をコントロールできない場合は自動車の運転はできません。

側頭葉てんかんは、薬剤を適切に使用しても発作が消失しない難治性てんかんになりやすいものの、てんかんの原因となっている異常部位(焦点)を手術で切除すれば、発作の70~80%が消失すると見込まれます。側頭葉てんかんが難治の場合は、早めに手術を検討してタイミングを逃さないことが重要とされます。さまざまな検査を行っても、てんかんの原因となっていない焦点を特定できない

原因部位不明なら緩和治療

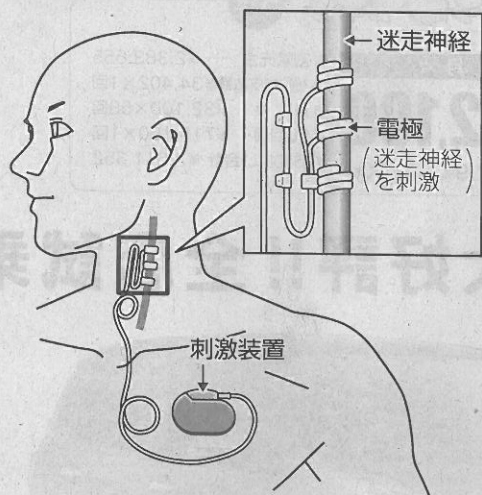
場合があります。焦点がさまざまな部位に点在したときの脳波を記録するこり、脳の重要な機能を有する部位にあっては、難治も、手術による切除が困難になります。

そのようなときは症状を和らげる緩和手術を検討します。緩和手術の一つとして、迷走神経刺激療法があります(図参照)。手術では、左頸部にある迷走神経に電極を巻き付け、前胸部に電極を刺激する装置を埋め込みます。術後2年間で発作を半分ぐらいに減少させることができます。

また、難治性てんかんと考えられていた患者さんの中に「実はてんかんではなかった」と診断されることもあります。外来での脳波

(第2土曜日に掲載)

迷走神経刺激療法



側頭葉発作手術が効果